

能代北高跡地のワークショップニューズレター

これから、ここから。

From here and now

The former site of Noshirikita Senior High School
and the future of Noshiro City

Vol.3

Newsletter

北高跡地の可能性を探る
実証実験プロジェクトに向けて！#北高跡地活用
アイカブはこれから
NPO法人アイカブセンターあきた

能代北高跡地利活用の可能性を探るワークショップ

2014年3月に秋田県から能代市に譲与された能代北高跡地。更地となって7年、これまで複数の提案や意見があり、周辺の商店街を含めたつながりを考慮した検討が必要とされてきました。2020年度は秋田公立美術大学が基礎調査を実施。恒常的な施設を建設することを想定した地域の文化経済を底上げる新しい文化施設プログラムの提案と、実験的に仮設建築物を増改築することを想定し、中心市街地活性化に向けた機運を醸成する思考継続型プロジェクトを提案しました。2021年度は、この検討成果に対する住民の意向把握やまちづくりへの関心を高めるため、利活用の可能性を検討するワークショップを開催しました。ニューズレター Vol.3では、次年度予定している実証実験プロジェクトを提示します。(企画・運営：秋田公立美術大学)

ワークショップ (WS) スケジュール

2021年度は2回のWSと高校生対象WSを通して、北高跡地のポテンシャルを引き出す実験的なプロジェクトを具体的に考えました。WSの内容は能代市役所のウェブサイトやニューズレターにてご覧いただけます。※第3回WSは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑み、中止となりました。

第1回 WS：2021年10月17日（日）13:00～16:00
第2回 WS：2021年11月28日（日）13:00～16:00
高校生 WS：2021年12月09日（木）13:00～15:00
第3回 WS：2022年1月16日（日）13:00～16:00



北高跡地利活用に関する能代市のウェブサイトはこちら

プロジェクトチームクロストーク

日時：2022年1月31日（月）10:00～12:00

場所：秋田公立美術大学 大学院棟G1S

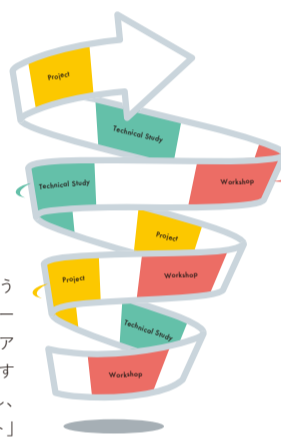
出席者：小杉栄次郎、井上宗則、船山哲郎、田村剛

プログラム

2021年度の振り返り
グラフィック・レコーディングの確認
実証実験プロジェクト案
次年度に向けて

- プロジェクト
Project
- 技術的検討
Technical Study
- ワークショップ
Workshop

創造的な意見交換を行う「ワークショップ」と、ワークショップで出たアイデアを専門的な視点から検証する「技術的検討」を繰り返して、実施可能な「プロジェクト」を考えていきます。

複数の実証実験プロジェクトで
未来のまちの姿を描く

2021年10月から全3回のワークショップと高校生ワークショップを予定していましたが、1月開催予定だった第3回ワークショップは中止となりました。第3回ワークショップでは、第2回ワークショップで考えた「北高跡地で取り組む実験的なプロジェクト」を本格始動させるためブラッシュアップし、実施時期を想定して計画を立てる予定でした。そこで、ワークショップを企画・運営する秋田公立美術大学のプロジェクトチームが集まり、これまでの意見やプロジェクト案をもとにクロストークを開催。グラフィック・レコーディングを見て振り返りながら、実証実験プロジェクトを具体的に話し合いました。次年度は技術的な検討を加えた複数の実証実験プロジェクトを実施し、北高跡地の可能性を探りながら未来のまちの姿を描いていきます。

能代北高跡地利活用スタートブック / 2021

「これから、ここから。」

北高跡地の歴史的背景や利活用における基本コンセプトの検討、思考継続型プロジェクトの提案などで構成した能代北高跡地利活用スタートブック。



スタートブックについての詳細はこちら

【プロジェクトチームクロストーク】

実験的なプロジェクトに
取り組むことは、公共施設をつくる
プロセスを見直すことでもある

田村：第3回ワークショップでは、第2回目の「北高跡地で取り組む短期・中長期プロジェクト」のアイデアをもとに、実際に次年度に取り組むプロジェクト案を提示していただく予定でした。残念ながら中止となってしまったのですが、ワークショップは今後も続きます。そこで次年度に向けてプロジェクト案の叩き台を提示したいと考えていますが、まずは、この1年を振り返ってみたいと思います。

井上：今年度始めたワークショップは新しい取り組みなので、参加者にとっては「これからどうなっていくんだろう」という手探りのところがあったと思います。ただ、ありがたいことにたくさんの意見を聞くことができました。次年度は、これまでのアイデアをもとにしたプロジェクトを実施することで、われわれが考えている一連の流れを体験していただけたと思いますし、そこで何か手応えなり、改善点が見えてくることを期待しています。残念なのは、3回



目のワークショップができなかったことです。プロジェクトの具体化を検討することができず、ある種、よくあるワークショップっぽい感じで終わってしまいました。実際にプロジェクトをどう進めていくのかについては、第1回、2回と参加して下さった方々にとって不安な点かもしれません。

小杉：公共のプロジェクトを進める上では、お金をかけず時間もかけずにいいものができるというのが一番効率のいい進め方なのですが、現実にはそれほど単純ではありません。そのことを私たちは伝えてきたつもりです。当初から、北高跡地という場所だからこそ可能な新しいプログラムを市民の皆さんと開発したいという思いはありますが、そこからさらに立ち戻り、行政が公共施設をつくるプロセス自体を見直すことの大切さを実感しています。ワークショップで出てきたプロジェクト・アイデアを皆さんと試しにやってみることで、市民協働の雰囲気と機運を醸成していくフェーズ（期間）にしたいと考えています。

5年後、10年後に向けて
「やってみる」を醸成していく

井上：今回、あえて「いつまでに何かを決める」といった工程計画を提示しなかったことも、もしかしたら次に続いていく雰囲気を醸成しているかもしれません。一方、能代松陽高校でおこなったワークショップでは、北高跡地を知らない学生が多く、驚きました。ワークショップへの参加が、家族や友達と北高跡地やまちづくりについて話さきっかけになったとしたらうれしいです。5年ぐらい経ったら彼らは社会に出ていく材も出てくるんじゃないか、10年経てばまちづくりを中心的に担う人材になっているかもしれない。そういうタネをまきつつあるのかなと思います。

小杉：北高跡地のような可能性のある場所があることで、

プロジェクトメンバー
左から／井上宗則、小杉栄次郎、船山哲郎、田村剛

街は変わっていくだろうという確信みたいなものが私たちにはあります。市民の皆さんと共にプロジェクトを盛り上げながら、少しずつ進めていくというプロセスを通して、そうした意識を共有したいです。

船山：要望ではないことが出てくることって、結構重要かなと思っていて。何が起るかわからないけれどとにかく「やってみる」という雰囲気が、じわじわ醸成されていく過程にあるのかなと思います。なのでやはり、次年度の実証実験プロジェクトはしっかり進めたいですね。

変わっていくものと、残していく
ものを実験しながら共有する

小杉：土地の文化はすごく大事なものです。それをどう育てていくのかを、いったんスピードを緩めて、じっくり確認しながらつくり上げるという考え方も必要だと思います。財政的な失敗が許されない現在、なるべくリスクを下げるためにも、実験を重ねた上で着実に成果を上げるやり



方が戦略的にも良いだろうという考えです。参加者のなかに核（コア）となるような人が現れることも期待しています。あと、プロジェクトのアイデアを北高跡地で試すのもいいけれど、既存の他の施設や場所で試してみることも必要かもしれません。うまく使われていない既存施設を使うことで済むこともあるでしょう。老朽化した施設を壊してやり直すばかりではなく、改修してうまく使えることはたくさんあると思います。

井上：北高跡地って、やろうと思えばいろいろできるけど、別に北高跡地じゃなくてもやれることはある。アイデアをいろんな場所にブラグインしていく感じでしょうか。

小杉：今の街のなかにどういった施設がどんな分布であるのか、その配置をもう一度検討し直すことも近い将来必要になるのかな。また、街は変わっていくものですが、古い建築を残して外観は変えずに街の景観を残しながらも、中身を時代に合わせて変えていくこともできます。実験的な



プロジェクトを通して、多くの人に街全体への関心を持ってもらえるようなプロジェクトに育てたいです。

街を「使う」ことで、見えてくるもの

船山：街を「使う」こと、「利用する」こと、「活用する」でもいいし、あるいは「愛でる」でもいいんですけど、そういう街へのアクセスみたいなものができていくと、街の在り方に興味を持っていけるような気がするんです。街のなかに空間がぼこぼこ空いていくときに、こういう使い方で活用してみたいと考える人が多くなっていくと、街に興味を持つ人が増えたということなのかなと思います。北高跡地で実験してみても、ここではうまくいかなかったけれど、あんな面白くできそうだと飛び火していくみたいな感じになっていったらいいですね。

井上：道路も公園も法的な制約があって、積極的に街を使いづらいつつあります。一方、そのような制約がかけられない北高跡地でいろいろない方を試行することは、街を使うことに対する意識を変え、結果的に北高跡地を超えたさまざまな活動に発展していくかもしれません。そういったことを念頭にプロジェクトを進めていくことが重要と考えています。





【プロジェクト案】

クロストーク後半は、2021年度のワークショップで提案されたアイデアを整理。全てを網羅する企画となるように5つのプロジェクトにまとめました。

井上: プロジェクト01の北高跡地でキャンプをしてみるというのは、結構シンプルで、でもちょっと街の捉え方が変わるきっかけにもなりそうなプロジェクトだなと思います。防災キャンプとしてまずは学びながら遊んで、料理を作って食べて。夜は映画を見たり天体観測したり。
小杉: 北高跡地で街の新しい見方をしたり、新しい体験をするって重要だと思います。今までと違う風景を見るのって、可能性が有りますよね。ここで公共の場の可能性を模索してみたいですね。

船山: キャンプにはいろいろな要素を含めることができますよね。能代近海で捕れる魚を中高生とかみんなで見つけて焼いてみるとかもできそう。

田村: 街なかの原っぱで寝てみるみたいなのって面白いですね。とりえず2〜3個、仮設の木造コンテナを組んでみるのもいいかもしれません。何かが始まる予感がします。

小杉: プロジェクト02についてですが、最初から北高跡



地のみを拠点として考えるのではなく、街なかの空き家を使いながら、県内複数の大学の学生たちを集めて能代の街と一緒にリサーチしたいですね。それを通して、北高跡地のリサーチ拠点としての可能性を探る実証実験をするのはどうでしょうか。伝統と先端技術が入り混じった能代という土地自体が、他大学の学生間を結び付けるハブとなり得るのではないかと。学生自身も、他大学他分野の学生と能代の土地で出会い、協働して街のリサーチをおこなうことで、新しい発見や可能性が見えるのではないかと思います。「木都」というキーワードにしても、



全く専門性の違う人たちに興味を持ってもらい、研究対象としてもらうことで、これまでとは違う新しい可能性が生まれるかもしれません。

井上: 短期間だけれど、若い人が街に溢れる時期があるのっていいですね。スポーツの合宿だったり、研究やリサーチなど活動の拠点だったり、シンポジウムをする場所だったり。ここを拠点にすることで、街なか若い人の活動が広がっていったらいい。

船山: 何か新しい教育プログラムが生まれるかもしれませんね。

小杉: どのプロジェクトも実際にやってみたら楽しそうなので、わくわくしますね！

能代北高跡地をフィールドに 取り組むプロジェクトのアイデア

2021年度に能代市役所でおこなった2回のワークショップと松陽高等学校でおこなった高校生ワークショップでは、北高跡地とその周辺をフィールドとしてさまざまな提案をいただきました。次年度は、北高跡地で実験的なプロジェクトを実施予定。意見やアイデアに技術的検討を加え、複数の実証実験プロジェクトを展開していきます。

【プロジェクトのアイデア】

- ・防災意識を高める場&イベント広場
- ・子どもや女性が集まる場として、若い人にイベント企画をしてもらう
- ・スタートアップ支援に着手できる仮設の拠点(起業・ものづくり・研究・コールセンター)
- ・文化財を保存・展示する文教施設構想
- ・文化財施設を仮設建築から始め、小さな展示会を開催
- ・木育と遊びの場
- ・木で組み立てたコンテナを仮設して実験的なイベントを企画
- ・雨風をしのげる屋根を設けた屋台村で季節を味わう
- ・能代の食が味わえる春夏秋冬のイベント
- ・自然と眺望を活かしたキャンプ&イベント
- ・べらぼう凧やこども七夕、天空の不夜城など能代の文化を伝えるイベント
- ・自然を活かしたグランピングで星空や映画を楽しむ
- ・白神山地や洋上風力発電が見渡せる展望台を仮設
- ・多世代交流イベントによる歴史伝承の場づくり、木工体験イベント
- ・小規模のスポーツ体験を複数用意して健康的な遊び空間づくりをする
- ・北高跡地をスタートしてガイドと共にめぐるウォーキングツアー
- ・天体観測やJAXAとコラボした宇宙イベント
- ・広い土地を活用してギネスチャレンジ
- ・みんなで芝生はりや植樹をするイベント
- ・お年寄りや若者が交流できる場
- ・バーベキューやキャンプをして広い土地を楽しむ
- ・広くて高い場所を利用してカフェに
- ・ウォーキングコースやドッグランに

「能代北高跡地利活用の可能性を探るワークショップ」での提案より



プロジェクト 01 北高跡地に宿泊する

Project 01

【概要】 防災キャンプと天体観測 【実施時期】 8月〜9月 (小中高生も対象にする場合は夏休みに)

- ・災害によってライフラインが断たれた状況を想定して実施
- ・能代市で実際に起こった災害(火災、洪水、飛砂等)について学習
- ・夜は屋外で映画上映会を開催後、天体観測を実施(JAXAとのコラボレーションは可能か?)

プロジェクト 02 北高跡地でスタートアップ

Project 02

【概要】 研究やリサーチのフロントオフィス 【実施時期】 学生対象の場合は夏休み期間

- ・学術研究等のフロントオフィスや、JAXAや木材高度加工研究所のサテライトオフィス
- ・フィールドリサーチの拠点や、夏休み1週間ぐらいのゼミやラボの拠点に

プロジェクト 03 北高跡地で展示する

Project 03

【概要】 文化財を楽しもう 【実施時期】 10〜11月 (能代市民俗芸能発表会等のイベントと連携)

- ・「将来の文化財」をテーマにした展示会などを開催
- ・木工の家具や凧など現在も制作されているものを中心とした展示物
- ・他のイベントにおいても使用可能で移動可能な展示空間を制作(木造コンテナ等)
- ・能代の文化財をリスト化していく

プロジェクト 04 北高跡地で作る

Project 04

【概要】 職人や企業とコラボしたワークショップ 【実施時期】 8〜9月

- ・地元の職人や企業と連携し、屋外でも使用可能な木工家具をつくる
ワークショップを開催(木材高度加工研究所との連携も検討)
- ・完成した家具を持ち寄った食事会を開催
- ・木都能代の歴史を学ぶ機会としても活用

プロジェクト 05 北高跡地で展望する

Project 05

【概要】 ランドマークはつくれるか? 【実施時期】 5〜6月、12月

- ・まちを一望できる展望台を検討する
- ・クレーン車等で高さを確認(5〜6月)後、仮設の解体可能な展望台を計画・設置(12月)

ワークショップを振り返って



「人のつながり」が北高跡地の「これから」の力に
平元 美紗緒

参加者の意見やワークショップの様子、多様なアイデアをグラフィック・レコーディングに描くことに毎回ワクワクしました!ワークショップ後に参加者同士がグラフィック・レコーディングの周りで話をする姿が心に残っています。ワークショップで素敵なアイデアが生まれただけでなく、お互いをよく知り合うきっかけになったこと。この「人のつながり」こそが、きっと「これから」の北高跡地の力になると思います。今後のプロジェクトを楽しみにしています!



プロフィール | 徳島県徳島市生まれ。高知・奈良で文化財建造物や伝統的町並みを通したまちづくりを学んだ後、結婚を機に秋田に移住。2015年からまちづくりファシリテーターとして、ワークショップのファシリテーターやグラフィック・レコーダーとして活動中。



実験には失敗もあり!
面白いことを一緒に楽しもう
田村 剛

北高跡地という大きな更地を前にして、ぼくは少し呆然とし、空っぽすぎて不安に思っていました。北高跡地を取り巻く境界の、場所や物が見えていなかったんですね。ワークショップで出てくるアイデアや、皆さんが語る思い出話を聞いてそのことに気づきました。これから能代の皆さんと北高跡地でいろんなあそび——ものごとを動かす——をし、そしてまたいろいろ考えていこうと思うと、ニヤニヤが止まりません。ところで、「実験」という言葉には「失敗」が含まれているように感じています。このあそびは「実験」だということです。自由に面白いことを考え、ものは試しと一緒にやってみましょう!! ぼくも負けませんよ。



プロフィール | 兵庫県神戸市生まれ。海外に1年半、京都に11年の生活経験あり。秋田に来て9年。現在、NPO法人アーツセンターあきた所属。動いていない場所や物を動かす仕組みを考えていきたいです。社会学修士(立命館大学)。元は機械系。

次年度は 実証実験プロジェクト!

北高跡地の可能性を探るワークショップは、2022年度も続きます。ワークショップのこと、プロジェクトのこと、このニューズレターのことなどは、NPO法人アーツセンターあきたまでお問い合わせください。

お問い合わせ先:
NPO法人アーツセンターあきた ☎ 018-888-8137

プロジェクトメンバー

小杉栄次郎(秋田公立美術大学景観デザイン専攻)
井上宗則(秋田公立美術大学景観デザイン専攻)
船山哲郎(秋田公立美術大学景観デザイン専攻)
田村剛(NPO法人アーツセンターあきた)

能代北高跡地のワークショップ

ニューズレター「これから、ここから。」 Vol.3

2022年3月発行

発行 公立大学法人 秋田公立美術大学

〒010-1632 秋田県秋田市新屋大川町12-3

TEL.018-888-8100

※能代北高跡地利活用可能性検討業務の一部として作成しています。

デザイン: 越後谷洋徳 写真: 伊藤靖史、船山哲郎、草野裕

編集: 高橋ともみ 制作: NPO法人アーツセンターあきた